



白石オリジナルミュージカル

永遠のカンパニー

～鬼小十郎と真田幸村～

作・演出 北林佐和子

監修 北川央



1_ミュージカルのクライマックス。出演者全員の歌声は会場を感動の渦に巻き込みました 2_片倉小十郎重綱役の元宝塚歌劇団男役スターの鳴海じゅんさん 3_真田幸村を演じた元OSK日本歌劇団トップスターの桜花昇ぼるさん 4_阿梅役の元OSK日本歌劇団娘役トップスターの沙月梨乃さん 5_7月11日、ミュージカルの主役3人と、大阪城天守閣の北川館長が来白。この日は、当信寺や片倉家御廟、真田ゆかりの地でお墓参りをし、役作りとミュージカルの成功祈願をしました。写真前列1番右は、同ミュージカルPR大使の白石市観光大使「白石戦國武将隊『奥州片倉組』」の片倉小十郎景綱氏

1

7月30日、白石オリジナルミュージカル「永遠のカンパニー」をホワイトキューブで、昼の部と夜の部の2回公演を開催しました。ミュージカルの上演前、監修を務めた大阪城天守閣北川館長が「大坂夏の陣・道明寺合戦」と題した講演を行い、ミュージカルの舞台となった大坂夏の陣・道明寺合戦の時代背景などを解説しました。

ミュージカル成功を祈願
本番が近づいてきた7月11日、ミュージカルで主役を務める片倉小十郎重綱（後に重長に改名）役の鳴海じゅんさん、真田幸村役の桜花昇ぼるさん、阿梅役の沙月梨乃さんの3人と北川館長が本市を訪れ、真田家ゆかりの地などを巡りました。

この日4人は、白石第二小学校で児童たちとの交流会に出席し、ミュージカルのワンシーンを披露。ミュージカルの素晴らしさを伝えると共に、白石オリジナルミュージカルをPR。鑑賞した児童は「テレビで見るのと違い、とても迫力があってすごかったです」と話してくれました。

この後、4人は片倉家城主

白石オリジナルミュージカル「永遠のカンパニー」の生みの親

脚本・演出家 北林 佐和子さんが「カンパニー」に込めた想いとは？

今回の歌劇（ミュージカル）は、「ミラノ万博で上演した作品を白石市でも上演できないか？」と北川館長からお声がけをいただき、白石バージョンに書き改めた作品です。ミラノで上演したものは道明寺合戦での限られた期間の物語だったので、今回、どのようにバージョンアップしようか悩みました。そこで、以前、北川館長に教えていただいた「瓜畑あそび」の史実に、幼少期の重綱と真田幸村との出逢いを創作。今回の歌劇に取り入れました。また、キャストの人数を増やしてスケールアップさせたことや、新たな楽曲・映像を追加したことも今回のオリジナルです。

「カンパニー」とはスペイン語で「鐘」。重綱と阿梅は、天寿をまっとうするまで仲良く暮らしたと聞いています。

暗い話題がどうしても耐えない現代、戦が絶えなかった戦国時代と少し似ていると思うのです。重綱と阿梅の愛の「鐘」という「希望の鐘」を、「釣り鐘」を旗印に持つ片倉家が治めたこの白石の地から、全国・世界中に響き渡れればと思っています。そして、ここ白石の人たちに、この作品をきっかけに、歌劇を好きになってもらえたらうれしいです。

Profile 北林 佐和子

大阪府出身。多数の演劇・コンサート・レビューの脚本・演出を手掛ける。伝統を、生粋の大阪人としてのユーモアある感性でアレンジできる希代の人物として評価が高い。現在進行中の脚本・演出作品を抱えており、関西発の新しい才能として、今、注目を集めている。

が眠る「片倉家御廟」や阿梅姫のお墓がある「当信寺」など、真田ゆかりの地を見学し、白石を自らの目や肌で感じることで役作りの参考にしながら、ミュージカルの成功を祈願していました。

白石オリジナルミュージカル誕生秘話
平成27年11月、北川館長を講師に「大坂の陣と真田家」と題したフォーラムを開催しました。講演の中で北川館長は、同年9月に「イタリアミラノ万博」で、道明寺の戦いを題材に、幸村・重綱・阿梅の3人を主役にしたミュージカルを上演。大好評であったことなどが紹介されました。

その講演後、本市からミュージカルの開催を依頼された北川館長が「ミラノ万博」で脚本・演出を手掛けた北林佐和子さんに相談。30分だった演目に、重綱と幸村の出逢いのシーンや新しい劇中歌などが追加され、白石オリジナルミュージカル「永遠のカンパニー」が誕生しました。

歌劇ファンも絶賛！
「素晴らしかった！」
7月30日上演のミュージカル

ルは、天下を制した豊臣秀吉が、大坂城で武将たちを相手に繰り広げていた宴の中で、重綱と幸村が出逢うシーンでスタートしました。秀吉じき後、激化した覇権争いに終止符が打たれた大坂夏の陣で敵味方に分かれた真田と伊達。その戦場で互いの素性を知らぬまま成長した重綱と阿梅が運命の出逢いを果たす。そこから物語は、重綱と阿梅の、感動のクライマックスへ…。

この日は、宝塚歌劇団・OSK日本歌劇団出身者が出演することもあり、800人を超える人で賑わいました。中には、大阪府から駆け付けたファンも！ 来場者は「とてもよかったです。楽しませていただきました！ 限られた舞台セットのようでしたが、それを感じさせない演出で、とても素晴らしかったです！ この機会にしか見られないのが残念です」と、満足した表情で話してくれました。

重綱と幸村、阿梅を巡る信頼や親子の情愛などを、歌劇ならではの華麗な表現で描かれた今回のミュージカル。北川館長の事前講演があったことでミュージカルの魅力がさらに増し、鳴りやまない拍手の中、幕を閉じました。